

会員におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今回の地区ニュースは、1『福岡地区新入会員研修会（当直業務支援講座）』、2『全国「検査と健康展」』、3『福岡市公衆衛生功労者表彰（市長表彰）』、4『福岡地区講演会および意見交換会』について皆様にお届け致します。

1. 2024年度福岡地区新入会員研修会（当直業務支援講座）

開催日時：2024年9月14日（土）13:00～18:45

場 所：Web開催（当初現地開催を予定。コロナ患者増加により変更）

内 容：1) 為になる！当直業務支援講座（6部門、計120分）

一般、血液、輸血、生化学、微生物、生理

2) 学術部門紹介（3部門、計10分）

病理細胞、遺伝子、総合

3) 福岡地区の活動について（10分）

稲子 勝秀（福臨技福岡地区長）

4) 日臨技・福臨技について（15分）

大久保 文彦（福臨技会長）

今年度も、新たに福岡県技師会に加入された会員向けにWebにて、当研修会を開催致しました。WEB研修会に参加された新入会員24名の感想文をご紹介します。（女性22名、男性2名）

参加者 1. 女性)

当直業務を始めて3ヶ月が経ち、少し慣れてきた部分もありますが、イレギュラーなことが起きると焦ってしまうことも多く、まだまだ冷静に判断する力に欠けていると感じます。しかし、今回の研修会を受講し、30秒でも冷静になってすべきことの優先順位をたてるというお言葉に感銘を受けました。今後は問題が起きた時こそ冷静に焦らず、一つ一つ解決していきたいと思いました。また、ただ提出された検体を検査するのではなく、Drがその検査を出す意味や検査結果の正確性の吟味、適した検体であるかの判断など一つ一つの検査に対して真摯に向き合うことを忘れず、当直業務に就きたいと思います。当直中は病院に1人しか検査技師がいない状況であり、新人だから仕方ないという言葉は通用しないと思っています。検査技師として、検査の専門家として、迅速かつ正確な検査を行うために、個人のスキルをあげていく努力を続け、信頼される検査技師になりたいです。

参加者 2. 女性)

緊急性が高いもの、医師に報告すべき項目対応の仕方など今後現場で働く上で、必要なことを学ぶことができ大変勉強になりました。当直時、焦らず、的確な対応ができるように手技や形態学的な特徴的を

理解し習得していきます。また、今後も技師会の勉強会などに積極的に参加していきたいと思っています。

参加者 3. 女性)

本研修において全ての部門で共通して、夜勤当直のみならず検査結果に疑いを生じた際に再検査をする前に、その要因について考える知識の重要性を感じました。また、緊急時に遭遇することが多い当直現場で、正確な結果を返すためにまずは基礎知識を確実に定着させることに努めていく必要があると思いました。少しでも不安な部分がある場合は他技師へ連絡し意見を求めるなど、個人の曖昧な解釈のみならず信頼度の高いデータを返すことは非常に重要であるとともに、その際に自分自身で考えられる知識を増やしておくことに今後努めていきます。貴重な資料もいただくことができたので本研修の内容を再度見直し、今後の業務に役立てていきます。

参加者 4. 女性)

当直業務にも入りはじめ、まだまだ不安な気持ちはありますが、本日学んだ対応の仕方を参考にしながら落ち着いて取り組んでいきたいと思っています。

参加者 5. 女性)

本日はたくさんの講義を受けさせて頂きありがとうございました。再検して同じくらいの値だからといって、何もかも信じて結果を送らずに、何か不可解だと思う点があったら検体の性状や検査に適した検体なのかをまずは考えるという点は、最近できることが増えてきたからこそ、一度初心に戻って考えながら業務することが必要なのだと思いました。自分が所属している生化学検査だけでなく、幅広い検査を1人で行わなくてはいけない夜勤の業務について、国試までは知っていたのに半年間その分野から離れて忘れていた部分も多かったので、勉強会に参加して準備した上で夜勤のトレーニングに臨みたいと思いました。

参加者 6. 女性)

本研修において全ての部門で共通して、夜勤当直のみならず検査結果に疑いを生じた際に再検査をする前に、その要因について考える知識の重要性を感じました。また、緊急時に遭遇することが多い当直現場で、正確な結果を返すためにまずは基礎知識を確実に定着させることに努めていく必要があると思いました。少しでも不安な部分がある場合は他技師へ連絡し意見を求めるなど、個人の曖昧な解釈のみならず信頼度の高いデータを返すことは非常に重要であるとともに、その際に自分自身で考えられる知識を増やしておくことに努めていきます。貴重な資料もいただくことができたので本研修の内容を再度見直し、今後の業務に役立てていきます。

参加者 7. 女性)

正しいデータを出すために、ただ再検するだけでなく検体が凝固していないか、検査できる状態である検体であるかどうかを確認することが大事だと思いました。また、データを出す上で、焦らずに落ち着いて処理をすることが大事だと思いました。

参加者 8. 女性)

まだ当直業務に関わっていないということもあり、自分が所属している部門以外は国試以来触れることが中々なかったため、復習も兼ねてとても勉強になりました。様々な例を挙げて検査値の解釈の仕方や検査に適した検体であるかなどを分かりやすく説明していただき、これから当直業務を行うにあたってとても参考になるお話を聞くことができました。いつから当直に入るかは未定ですが、今回の研修会で学んだことはしっかり復習して知識として身につけ、今後に役立てていけたらいいなと思います。

参加者 9. 女性)

私は今年入職して、日勤帯では生理部門を担当しています。そのため当直自体も初めてですが、さらに普段あまり触れることの無い検体を扱うため、当直初日はかなり不安でした。1人で検体をさばきながら、電話対応をしていく中で焦りを感じ、正確な結果を返しているのか毎回不安でした。今回の研修会では、各部門での注意事項やよくある症例、その対応策など多くのことを学びました。学んだことを自分なりにまとめて、不安なことは先輩に再びご指導いただき、これからの当直で焦りや不安を少しずつ減らしていくことが出来たらと思います。また自分の部門以外の勉強会にも積極的に参加をしていき、幅広い知識を有して、一日でも早く1歩進んだ臨床検査技師へとなっています。本日はお忙しい中、このような研修会を開催して頂き、ありがとうございました。

参加者 10. 女性)

各業務の基礎知識から当直業務ならではの対応まで発展して講義をしていただき理解が深まりました。自施設の上司にも講義をしていただき、普段から良い教育をしていただいていると再認識し大変ありがたく思いました。

参加者 11. 女性)

私は今月から当直業務に入らせていただいています。普段は生理検査に所属しているため、なかなか検体を扱うことがなく、不安な気持ちもありましたが、先輩達のご指導のもと、業務をすることができています。今回のご講演は当直業務に関することとお話しして頂き大変勉強になりました。検体検査においては、前回値との乖離が見られた場合、ただ再検査して結果を返すのではなく、凝固や輸液混入、また患者間違いや薬の影響など、様々なことを考慮すべきだと改めて学ぶことができました。また患者さんの検査結果を最初に見るのは私達臨床検査技師であることを忘れず、適切な結果を返せるように、基礎からしっかり勉強していきたいと思います。また改めて、福岡県技師会の一員として、様々な活動にも参加していきたいと感じました。今回はお忙しい中、このような素晴らしい研修会を企画・運営してくださり誠にありがとうございました。

参加者 12. 女性)

今回、当直支援を目的とした研修会ということで自信の業務にも役立てることのできる内容で大変勉強になりました。私は生化学部門の配属で業務をおこなっていますが、検査の中身だけに目を向けるのではなく、検査の前後のプロセスをしっかりと理解したうえでの結果の見方、前回値をふまえた結果の返し方など、臨床的な評価を行っていかなければならないことはとても勉強になりました。また、各部門でも再検査をかけるときの考え方が違い、血液検査での血小板凝集や一般検査でのアスコルビン酸混入など、偽陰性・偽陽性となる結果があることをふまえた検査が大切ということを改めて再認識することができました。輸血検査部門では、不規則抗体の存在や製剤の取り扱い、緊急時の輸血選択など勉強

することができ、やはり患者さんに直接投与するため間違いがあつてはならないため、入念な確認を心がけて行きたいと思います。そのほか心電図や細菌検査など、自分の目で見て判断することも必要となってくるため、それぞれの特徴や患者さんの状態もふまえた結果の捉え方などは意識していきたいと思います。最後に、私の職場での当直は1人での業務となるため、今回学んだ基礎知識・注意点をしっかりと踏まえた上で今後の業務に活かして行きたいと思います。今回はこのような研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

参加者 13. 女性)

今回研修会に参加させていただいて、当直に入る上で求められる能力を詳しく知ることができました。普段のルーチン業務で自分が携わる部署の講義でも、私自身が知らなかった知識があつたため大変勉強になりました。特に印象に残った内容は、疾患を疑う前にまず検体の状況を確認することです。忙しいとついおろそかになるなど自覚があります。生化の採血管がしっかり固まっているか、検体量は適切か、血液項目などの検体が凝固していないかなど日々の業務を振り返りながら、基本的なことを押さえることでより正確なデータを早く提供できるなど考えました。また、輸血項目では基本的ではありますが緊急輸血時の考え方の復習ができ、大変良い機会となりました。実際1人になって緊急輸血をしなければならぬ状況になってしまったら、血型検体を必ず確保し、迷う状況であればすぐに担当者に電話することを心に留めておきます。当直の時間帯は異常な検査データや緊急輸血オーダーが出ることが予想されるため、まずは落ち着いて自分自身の行動、判断に原因がないか探ることが大切だなど思いました。今回学んだことを当直業務の際に活かしていきます。貴重な講義を聞かせていただきありがとうございました。

参加者 14. 男性)

現在の病院では当直業務がないため、大変有意義な講義となりました。生化学や血液一般検査での再検査や結果の解釈を、臨床検査技師として正確な結果を臨床に届けるためどのように対処すべきかを学び、これらを今後の業務に活かし、臨床検査技師として更なるスキルアップを目指していきたいと思います。また、自ら考え、時代にあつた検査技師を目指し、今後様々な検査技師講習会に参加していきたいと思います。今回は大変有意義な研修会となり、講義をしていただいた先生方の皆様大変ありがとうございました。

参加者 15. 女性)

研修会に参加して今している業務にも活かしていきたいと思つたし夜勤に入る上でのポイントなどたくさん学ぶことができ大変有意義な時間でした。高い専門知識をもってチーム医療の一員として医療に貢献できるよう日々の業務に活かせるようスキルアップを目指して学び続けていきたいと思いました。

参加者 16. 女性)

各分野それぞれの講演が大変参考になりました。中でも当直業務については、就職してから1番イメージできず不安に感じていることであつたため、今回お話を聞くことができ本当に勉強になりました。改めて、このような研修会を開いてくださりありがとうございました。

参加者 17. 女性)

研修会を通して各部門の基礎知識や業務における注意点について学ぶことができました。今後、業務を行う際には学んだ知識を生かしたいと思います。また、臨床検査技師会の取り組みなどについて知ることができました。

参加者 18. 女性)

わかりやすかったです。ありがとうございました。

参加者 19. 女性)

研修会に参加し、日常的に取り扱うことのない他の専門分野をこういった会を通して聴講することができ、非常に勉強になりました。今後、当直及び緊急対応を行っていく上で研修会にて学んだ事を活かし、業務に携わろうと思います。貴重なお時間ありがとうございました。

参加者 20. 女性)

私は、来月から夜勤トレーニングが始まります。しばらく他の部署の内容に触れていなかったもので、復習することができました。夜勤トレーニングに生かしたいと思います。

参加者 21. 男性)

普段検査に関わらない微生物部門、輸血部門など幅広く学ぶことができ、とても勉強になりました。私自身は尿沈渣が苦手ということもあり、これから一般部門を集中的にたくさん参加したいと思いました。

参加者 22. 女性)

日頃行っている生理機能検査のみではなく、尿定性試験、輸血検査などについての理解を深めることが出来た。

参加者 23. 女性)

各分野について丁寧に教えていただき非常に勉強になりました。今後当直に入ることになった際に役立てたいと思います。

参加者 24. 女性)

研修会を通して、各部門の検査手技で気をつけておいた方がよいことや偽陰性・偽陽性などの結果の見方や考え方を学ぶことが出来ました。今後当直業務に就く際に、今回の研修で学んだことを活かして取り組んでいきたいと思います。

2. 2024 年度全国「検査と健康展」

開催日時：2024 年 11 月 17 日（日）10：00～15：00

場 所：イオンモール筑紫野 3F イオンホール

内 容：1) 顕微鏡観察、2) 体内糖化度測定、3) 血液型検査の疑似体験（検査試薬のみ使用）
4) 肺機能検査

- ①生物化学、②生理、③病理細胞、④一般、⑤血液、⑥微生物、⑦輸血、
⑧事務局) の 8 つのブースを設置

全国『検査と健康展』in 福岡を 2024 年 11 月 17 日 (日) に福岡県筑紫野市のイオンモール筑紫野にて開催しました。今回は福岡地区が担当し、244 名の来場者を受け入れることが出来ました。イベント内容として体内糖化度測定、脳年齢検査、肺機能検査をはじめ、血液型検査や顕微鏡とモニターを用いた微生物、血液、尿一般、病理・細胞診の観察など、内容の濃いものにすることが出来ました。

来場者の方々が真剣に話を聞かれている様子が印象的で、血液型検査や糖化度測定など体験型中心にすることで、より興味を持って頂けたのだと思います。また、お子様向けに白衣での写真撮影、塗り絵やバルーンアートなどを準備し、特にバルーンアートでは完成したお花やうさぎなどにイラストを描くことが人気となっていました。

大きな問題も無く、開催する側も参加される方々も一体となって盛り上がる有意義なイベントにすることが出来ました。(参加者内訳：生化学 115 名 生理 85 名 病理 43 名 一般 67 名 血液 70 名 微生物 130 名 輸血 67 名 脳年齢 63 名)



(福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区公益事業部長 津田 昌和)

3. 福岡市公衆衛生功労者表彰 (市長表彰)

開催日時：2024 年 12 月 4 日 (水) 13:30 開会

場 所：福岡市役所 15 階 講堂

内 容：福岡市長感謝状贈呈

表彰者：嶋田 裕史 技師 (福岡大学病院)

山口 知彦 技師 (九州大学病院)

石垣 卓也 技師 (九州大学病院)

本表彰の選定基準は福岡市に居住している若しくは福岡市に就業しており、公衆衛生関連団体の結成および指導育成に顕著な実績をあげた方々へ贈られます。本年度は福岡地区より功績のあった 3 名の検査技師の皆様を推薦させて頂きました。



(山口技師に贈られた感謝状)

4. 2024 年度福岡地区講演会および意見交換会

開催日時：2025 年 2 月 15 日 (土) 15:00~17:00

場 所：九州中央病院 外来棟 3 階 講堂

内 容：1) 講演会 15:00~16:00

【テーマ】今行うべき福岡県臨床衛生検査技師会の事業展開

【講 師】大久保 文彦 福臨技会長 (九州大学病院 病理診断科・病理部)

2) 意見交換会 16:00~17:00

大久保福臨技会長は今期のテーマの一つに『つなぐ』を掲げています。福岡地区としても会長の意向に沿った企画は出来ないものかと考え、まずは、小規模・中規模施設の検査技師の皆様には福岡県臨床衛生検査技師会についてより深く知って頂くのが一番と考え、大久保福臨技会長に講演を依頼致しました。講演会は技師 27 名、賛助会 51 名、意見交換会は技師 24 名、賛助会 49 名と多くの方々にご参加して頂きました。本企画を通して検査技師および賛助会の皆様に福岡県臨床衛生検査技師会の活動について理解して頂き、検査技師を賛助会の皆さまとの距離も近付き一定の成果が得られたと考えます。



(福岡地区講演会 (左) および意見交換会 (右) の風景)

発行責任者：福岡県臨床衛生検査技師会福岡地区/地区長 稲子 勝秀